

JALまねびより

今月の特集 JALまね 第5回通常総代会開催



Naomichi

瀬幣姫神社 (浮布池)
大田市 三瓶町



第5回

通常総代会特集

J Aしまね第5回通常総代会を6月30日（日）、松江市の島根県民会館で開催しました。

2019



議長団



投票風景

当日は、総代定数1,000人（欠員14人）に対し、965人（本人出席575人、委任状5人、書面出席385人）の出席、議長団に、稲田宗総代（くにびき地区本部）、西川友史総代（西いわみ地区本部）の両氏を選出し、各地区本部総代から意見、要望が出される中、前年度事業報告、新年度事業計画など全議案が可決承認されました。竹下組合長が「今年の5月31日をもって政府が定めた『農協改革集中推進期間』が終了した。一定の評価はあったものの、予断を許さない状況は続いている。このような時だからこそ、協同の力を結集するとともに関係機関との連携を強化し、人・農地・地域資源をフルに活用した『農業者の所得増大』『農業生産の拡大』へのさらなる挑戦、そして『地域の活性化』への貢献として、組合員の皆さまの声に基づいた総合事業とJA運営を行っていく」とあいさつ。

来賓の丸山達也島根県知事からは、「昨年6月に県が掲げた農業産出額100億円増加の目標に向け、先般JAグループ島根と島根県の間で目標の早期達成に向けた共同宣言を行い、車の両輪として双方が全力を尽くすことを改めて宣言した。令和という新しい時代にふさわしい積極的な姿勢で連携関係を構築し、水田園芸をはじめとする魅力ある農業の確立、島根の強みを活かした特色ある生産の振興、地域を支えていただく中核的な担い手の確保を強力に推進していきたい。活力ある農業・農村の実現に向けて、引き続き全力で取り組んでいく」との言葉をいただきました。

また、役員改選を行い、その後の理事会において新組合長に石川寿樹の就任が決定しました。石川新組合長のもと新たな執行体制がスタートしました。

平成30年度 事業報告

平成30年度は、経済の緩やかな回復の中、企業の設備投資は堅調に推移し、個人消費も持ち直しの傾向となった一方、世界経済の緩やかな減速を背景に輸出は伸び悩み、景気の足踏み感が見られました。

また、海外では米国と中国の経済対立による貿易戦争とも呼ばれる関税政策の応酬や英国のEU離脱を巡る混乱、リーダー照射事件や元徴用工問題による韓国との関係悪化など、国際的な政治・経済の先行きも不透明感が高まっています。

島根県内の経済を振り返ると、雇用情勢は改善の動きが見られ、個人消費も緩やかな持ち直しの動きが見られるものの、少子高齢化、人口減少は一段と進展していく見込みであり、景気回復の実感を得るには至っていません。

農業情勢では、豪雨や台風、地震など多くの自然災害が発生し、全国各地で農産物・農業施設等に甚大な被害をもたらした他、9月に発生した豚コレラはいまだ終息の気配が見えず、復興・防疫の取り組みを引き続き進めていく必要があります。

国際貿易交渉では、平成30年12月にTPP11、平成31年2月に日EU・EPAが発効するなど、関税の削減や撤廃に向けた動きが始まっています。今後、米国との二国間交渉が開始される見込みであり、これらの動向について引き続き注視していく必要があります。

組織情勢では、平成30年6月に公表された農

林水産省による「農協の自己改革に関するアンケート調査」の結果で浮き彫りとなった、自己改革にかかるJAの取り組みと認定農業者等の認識との乖離について、解消に向けた担い手との対話を一層進める必要があります。また、農協改革集中推進期間が期限を迎えることから、平成30年12月から取り組みを始めた「JAの自己改革に関する組合員調査」の結果を受けた組合員との関係強化やJAへの理解促進に向けた取り組みについても引き続き進めていく必要があります。

こうした状況の中、平成30年度は「農業戦略実践3カ年営農計画」の最終年度として、県や市町村、関係機関と連携し、営農指導と経営指導を通じた農業所得の増大、農業生産の拡大に向けた取り組みを実施しました。

取り組みの結果、販売品販売・取扱高が37,752百万円、購買品供給高が33,915百万円、貯金残高が977,670百万円、貸出金残高が298,851百万円、長期共済保有高3,438,480百万円となりました。また、財務状況の安全性を示す指標である自己資本比率は14.06%となりました。

収支面については、事業利益が1,628百万円、経常利益は2,594百万円。当期剰余金は1,869百万円となり、前年度実績を大きく上回りましたが、貸倒引当金の算定方法を変更したことにより、特に信用事業において貸倒引当金戻入益が933百万円発生したことが主な要因です。

財務・事業成績の推移

(単位：百万円)

区分	項目	平成29年度	平成30年度
財務	事業利益	1,016	1,628
	経常利益	2,189	2,594
	当期剰余金	609	1,869
	総資産	1,092,634	1,113,478
	純資産	77,986	79,235
信用事業	貯金	984,693	977,670
	預金	499,645	522,005
	貸出金	299,671	298,851
	有価証券	167,390	155,212
	国債	80,375	78,123
	その他	87,015	77,088
共済事業	長期共済保有高	3,541,460	3,438,480
	短期共済新契約掛金	10,184	9,805
購買事業	購買品供給高	34,014	33,915
販売事業	販売品販売・取扱高	38,129	37,752

(注1) 貯金は譲渡性貯金を含む。

(注2) 販売品販売高・取扱高は受託販売品と買取販売品の合計。

平成30年度(第5事業年度)剰余金処分

(単位：円)

1. 当期末処分剰余金	2,643,671,345
2. 剰余金処分数額	1,983,530,105
(1)利益準備金	374,000,000
(2)任意積立金	1,386,464,000
農業振興積立金	200,000,000
農業災害積立金	200,000,000
教育研修充実積立金	150,000,000
税効果積立金	236,464,000
信用事業システム開発積立金	200,000,000
BIS規制強化対応積立金	200,000,000
施設等更新積立金	200,000,000
(3)出資配当金	223,066,105
3. 次期繰越剰余金	660,141,240

(注1) 出資配当金は年1.0%の割合である。

(注2) 次期繰越剰余金には、営農指導、生活・文化改善事業の費用に充てるための繰越額93,486千円と、地区本部業績還元のために繰越額100,000千円が含まれている。

令和元年度 事業方針

農業振興

方針

令和元年度は「第2次農業戦略実践3カ年営農計画」の初年度となり、第1次計画での成果と反省を踏まえ、島根農業のモデルとなる経営形態を提案することにより農業戦略を明確にし、多くの組合員がJAに結集することで「農業所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実現につながる目標の達成に向けて取り組みます。

また、JAしまねがリーダーシップをとり、更に組合員の経営基盤の強化を進め、島根県が目標に掲げた「農業産出額目標730億円」「生産農業所得目標300億円」の目標達成に向け取り組みます。



重点事項

- ① 新規就農者を含む地域の担い手育成
- ② 担い手経営体の経営課題に対応した農業経営管理支援
- ③ JAの総合力を発揮した事業承継支援の実施
- ④ 農作業等の安全・安心対策
- ⑤ 営農指導での生産者貢献
- ⑥ 農業振興支援事業の実施
- ⑦ 「重点推進5品目」の拡大を核とした水田での園芸振興の推進
- ⑧ 主食用米の「きぬむすめ」「つや姫」への品種誘導
- ⑨ 島根県産農畜産物の安全安心の取り組み
- ⑩ 担い手の労力軽減の取り組み

全般

くらしの活動

豊かなくらし・地域づくりを目的とし、地域活性化の核となる取り組みとしてすすめます。

また、食と農、地域とJAを結ぶ取り組みとして、青年組織、女性部をはじめ組合員や地域住民など幅広い参

加・参画（アクティブ・メンバーシップ）を促進し、農協運動の活性化を図ります。

販売事業

しまねブランド商品として市場や卸に頼らない県産農畜産物の販売の強化に取り組みとともに、生産基盤の維持・拡大を図るため、「農業戦略実践3カ年営農計画」に掲げた「販売を起点としたものづくり」の実現に向け、行動計画を策定し進捗管理を行うことにより、生産現場での営農指導と販売を連携させた実践策を講じます。

購買事業

農家組合員の営農を支え地域農業の振興に資するため、営農指導部門・販売部門・TACと一体となって効率的な購買事業を進め、農家組合員の生産コスト低減と組合員サービスの充実・強化に努めます。

また、組合員・地域住民の暮らしを支援し、地域の活性化に貢献するとともに、時代の変化・多様なニーズに対応した商品の提供が行えるよう、生活購買事業・店舗購買事業・自動車燃料

事業を積極的に取り組み、より一層のサービスの充実に努めます。

信用事業

総合事業の強みを活かして他業態と差別化した価値を提供しつつ、コスト削減につながる事業見直しにより持続可能な収益構造を構築し、農業・地域から一層必要とされる存在を目指します。

共済事業

組合員・利用者のくらしを守り、農業経営と地域社会に貢献する活動を展開するため、地域密着の事業活動である3Q訪問活動を通じて「ひと・いえ・くるま」の総合保障の提供及び「農業リスク診断活動」を実践し、一層の『信頼』を高めるとともに、次世代・次世代など新たなJAファン（理解者）づくりにより事業基盤の維持・拡大を図ります。

また、高位均質で満足度の高いサービスの提供、適正・迅速かつ効率的な事務処理の実施及びLabels（※携帯用タブレット端末）の全面活用により事業の効率化・機能強化を図り組合員・利用者ニーズに応えます。

新役員代表挨拶



代表理事組合長
石川 寿樹

この度、竹下前組合長の後を受けて、組合長に就任致しました石川でございます。もとより、その器ではございませんが、よろしくお願い申し上げます。

若干自己紹介をさせていただきますと、わたしは昭和27年生まれ、満66歳になります。昭和52年に当時の出雲市農協に入り、爾来42年に亘り、JA一筋に歩んでまいりました。

さて、7月より3年の任期をいただいたわけですが、わたしに課せられた役割は、大きく二つあると思っております。

その一つは、「統合の効果」を更に発揮することです。平成27年3月にJAしまねが誕生し、早いもので4年余りが経過しました。徐々にその成果が現れつつありますが、とは言え、統合して良かったなあ実感

できるようなレベルには達していません。まだまだ調整すべき事項がたくさん残っていますので、速やかに統一していく必要があります。

そして今一つは、「自己改革」の更なる実践です。政府主導の農協改革の集中推進期間は本年5月を以て一応のピリオドが打たれました。しかしながら、われわれ自らが掲げた「自己改革」は、むしろこれから本番です。例えば、柱の一つである「農業者の所得増大」については、生産資材価格の引き下げ等に取り組みでまいりましたが、まだ引き下げの余地があると思っております。

また、「農業生産の拡大」についても、米の買取制度や独自の農業振興支援事業により、販売高は統合前と比較すると、平成30年度は13億円増の377億円となりました。更に令和3年度を最終年度とする次期中期経営計画では、39億円増の416億円の計画を立てています。自ら立てた計画を絵空事で終わらせるのではなく、目に見える形で実践していくことが、何よりも重要な使命だと思っております。

最後に、今後一層のご理解とご協力をお願い申し上げます、ごあいさつといたします。

退任役員代表挨拶



前代表理事組合長
竹下 正幸

退任にあたりごあいさつを申し上げます。

先の通常総代会を以て、任期満了により平成28年6月より務めてまいりました、代表理事組合長を退任いたしますこととなりました。

在任中大過なくその任を果たせましたのも、組合員の皆様をはじめ、関係機関、各団体、地域の皆様、そして職員の皆様など、本当に多くの方々のご理解とご協力の賜物と、心から感謝を申し上げます次第でございます。

振り返ってみますと、JAしまねの発足以後、「信頼され、選ばれ、ご利用いただけるJA」を目指し、統合メリットの創出に向けて事業改革や運営改革などに取り組みとともに、「儲かる農業の実現」を目指し、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を最重点課題として自己改革に取り組んで参りま

した。

また、JAの経営は経済情勢と社会情勢の変化もあり、非常に厳しい状況にあるなか、組合員の皆様の負託に因應するためには、JAの健全経営を行う体制整備に併せ、事業改革を実施する事が、私たちに課せられた課題であります。このような中、第4回通常総代会において、次期に向けた運営改革の決議をいただき、平成30年11月の臨時総代会では役員定数の見直し等の新たな運営体制についてご承認いただき、体制整備を行うことができました。一方、事業改革では、信用共済事業において、本店と支店を直結する文鎮型組織とし、事業部制的運営とするなど、一定の方向性を決定しましたが、営農経済生活事業につきましては、取り組まなければならない今後の課題が残存しています。JA改革においてはTPPやTAG等、JAを取り巻く農業情勢は依然厳しい状況が待ち受けておりますが、今後も組合員の皆様のご協力をいただき、役職員一同が共通認識を持ち、一丸となって取り組むよう期待しています。

組合員の皆様には、引き続きのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、心からの感謝を申し上げます、退任のごあいさつといたします。

本当にありがとうございました。



新役員紹介

J Aしまねの発展につとめてまいります。
よろしくお願い致します。



常務理事
(信用、共済)
有田 吉弘



常務理事
(営農、経済)
石川 薫



代表理事専務
高木 賢一



代表理事副組合長
山根 盛治



代表理事組合長
石川 寿樹



くにびき地区本部
常務理事 本部長
栗原 令



理事
佐々木孝子



理事
高野 智子



理事
諏訪 智子



理事
小村 伸治



やすぎ地区本部
理事
根来 茂樹



やすぎ地区本部
常務理事 本部長
伊藤 精一



くにびき地区本部
理事
多久和 宏



くにびき地区本部
理事
田中 鈴夫



くにびき地区本部
理事
菅井 一



隠岐地区本部
常務理事 本部長
佐々木賢治



雲南地区本部
理事
澤田 秀樹



雲南地区本部
理事
石原 公夫



雲南地区本部
理事
新田 昭喜



雲南地区本部
常務理事 本部長
竹下 克美



出雲地区本部
理事
藤江美由紀



出雲地区本部
理事
福島 隆



出雲地区本部
常務理事 副本部長
珍部 誠



出雲地区本部
常務理事 本部長
岡田 達文



隠岐どうぜん地区本部
常務理事 本部長
新谷 徳昭



斐川地区本部
理事
青木 広幸



斐川地区本部
常務理事 本部長
山根 善治



出雲地区本部
理事
永瀬のり子



出雲地区本部
理事
伊藤 篤男



出雲地区本部
理事
立脇 渉



いわみ中央地区本部
常務理事 本部長
佐々木 豊



島根おち地区本部
理事
山田 康司



島根おち地区本部
常務理事 本部長
日高 光弘



石見銀山地区本部
理事
川上 隆



石見銀山地区本部
常務理事 本部長
山崎 辰次



西いわみ地区本部
理事
青木 和憲



西いわみ地区本部
理事
中島 重秋



西いわみ地区本部
常務理事 本部長
田村 清己



いわみ中央地区本部
理事
藤若 将浩



いわみ中央地区本部
理事
中東多久夫



監事
川神 守



監事
岡 睦夫



常勤監事
田尻 宏



常勤監事
青砥 正幸



代表監事
名原 佳宏



雲南地区本部
執行役員副本部長
源 之美



くまびき地区本部
執行役員副本部長
奥原 展芳



員外監事
山川 博司

第5回 総代会



Q 1 : 正組員、准組員ともに減ってきている。このことについて、これまでの取り組みや今後の対応策を聞きたい。

A 1 : 統合以前より高齢化や死亡による脱退が進む一方で、若年層の加入が進まない状況にあります。今後の大きなテーマとして、我々の組織基盤維持の観点で検討して参ります。その中で、平成29年度より一戸複数正組合員化の取り組みを展開しており、今年度も継続して取り組む計画を立てています。また、増資の取り組みとして役職員による増資運動を前年度と今年度の2年間取り組む予定としています。

Q 2 : 農林中金からの人材受け入れの背景や、奨励金の引き下げの課題への対応等の考えを伺う。

A 2 : 農林中金は農業振興への資金支援が厳しくなるなか、全国で400名、島根県に3～4名程度の農林中金の職員を派遣する人的支援に方針が変わってきています。また今回の役員改選では農林中金から理事を受け入れる提案としています。奨励金の引き下げは以前から話があり、大変厳しい内容の中で中期3カ年計画を策定いたしました。事業改革を含めてこれから取り組んでいく考えです。

Q 3 : 貸倒引当金の算出方法の変更に伴う戻入益10億円とあるが、変更となった経過を確認したい。

A 3 : 公認会計士監査や財務処理の基準例が変更になり、これまでの税法基準から、貸倒実績率に基づく引当てを合理的な基準として引当てることとなりました。その結果、これまで引当てていたものを戻し入れることになりました。

Q 4 : 県内農業の持続可能な発展に向け、様々な担い手・後継者対策がなされてきたが、目覚ましい解決に

は至っていない。これからは行政との連携を更に進め対応することが求められるが、JAしまねの社会的使命を今一度伺いたい。

A 4 : 非常に大きな課題であり、JAのみならず島根県をあげて取り組むべき問題と思っています。特に農家を中心とした中山間地の人口減少には、産業政策、農業振興政策、そして住みよい町づくりといった課題のもとに、行政や地域の皆さんと一緒に取り組む問題と思っています。その中で、JAも率先して取り組んで参ります。

Q 5 : 教育研修機能を県中央会へ移管するとあるが、考え方やあるべき姿を伺う。また事業総利益に基づく配置ではなく、農家が必要とする人員配置や要因管理をお願いしたい。農業は土地と結びついた生産作業であり、農業者に寄り添った職員の教育が中央会にできるのか不安に感じる。地元に着した教育研修をもっと取り入れてほしい。

A 5 : 統合により教育研修の担当部署を県中央会からJAしまねの内部部署に移管した経過があります。その後の検討で、教育研修についてはJA内部よりも外部の機関がJA職員研修、育成にあたるべきであるとの考えがまとまりました。全国中央会が教育研修の統括機関として存在している中、全中、県中にてJAしまねの職員教育、人材育成を行うかたちに体制を変更するものです。またJAの事業は総合事業ですので、人員配置にあたっても事業の特性、実態を念頭におきながら基準を定め今後再配置等を実施して参ります。地域に着した教育研修についても検討して参ります。

このほかにも幅広くご意見をいただきました。



報告事項

「JAバンク基本方針」の変更について

第15号議案
令和元年度における監事の報酬額の決定について

第14号議案
令和元年度における理事の報酬額の決定について

第13号議案
退任監事に対する退職慰労金の支給について

第12号議案
退任理事に対する退職慰労金の支給について

第11号議案
令和元年度指導事業に要する経費の賦課及び徴収の方法の決定について

第10号議案
会計監査人の選任について

第9号議案
経営基盤強化積立金規程の一部改正について

第8号議案
監事監査規程の一部変更について

第7号議案
規約の一部変更について

第6号議案
定款の一部変更について

第5号議案
役員を選任について

第4号議案
令和元年度事業計画の設定について

第3号議案
令和元年度事業計画の設定について

第2号議案
令和元年度事業計画（令和元年度～令和3年度）の設定について

第1号議案
平成30年度事業報告及び剰余金処分案について

本総代会にて付議した議案は次のとおりです。



「JAしまね自己改革取組宣言」 に基づき、自己改革を一層進めて まいります。

6月30日の第5回通常総代会において、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3つの基本目標の実現に向けて、引き続き、組織を挙げて取り組む旨の「自己改革取組宣言」（案）が満場一致で採択されました。

JAしまね 自己改革取組宣言

JAは、農畜産物の販売事業のほか、信用事業、共済事業などの様々な事業を、営農相談やくらしの相談活動などを通じて総合的に結びつけ、農業振興や地域づくりに取り組んでいます。「総合事業」として実施しているからこそ、JAの経営基盤が安定し、組合員の負託に応えることが可能となっています。

また、人口減少や高齢化が進むなか、JAの各事業・サービスの提供による生活インフラ機能の発揮と、「食と農」、「助け合い」の視点から、組合員だけでなく地域住民の方々にも参加いただく「JAくらしの活動」の展開が、ますます重要なものとなってきています。

近年、農業者である正組合員に加え、JAの事業を利用し、JAの理念・活動に賛同いただける地域住民の方々の准組合員加入が増えています。准組合員の立場から、JA、農業者が進める「食の安全・安心」の取り組みを「地産地消」という形で後押しするとともに、JAが行う各組織活動への参加によって、地域農業を支える「農業振興の応援団」となっています。正組合員と准組合員の一人ひとりが力を合わせ、地域の農業とくらしを支えあっているのです。

こうした環境・背景を踏まえ、JAしまねは自己改革の3つの基本目標の実現に向けて、組合員の皆さまとともに、以下のとおり組織をあげて取り組みを進めてまいります。

記

1. 農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化に取り組めます。
2. 協同組合の原点に立ち返り、組合員の皆さまとの話し合いを、より一層深めていきます。
3. これまでも、これからも、JAしまねは総合事業を展開し、地域にとって、なくてはならない組織であり続けます。

以上

令和元年6月30日

第5回 島根県農業協同組合 通常総代会



雲南

農業者・女性部健診新設 対象広く項目充実

雲南地区本部とＪＡ島根厚生連は、農業生産や日々の生活の土台となる「健康づくり」を支援しようと、今年から新設した「農業者・女性部健診」を6月21日に同地区本部で実施しました。

農業従事者や女性部員をはじめとした組合員が対象で、一般的な健康診断の項目にはない、胸部ＣＴ検診（40歳以上）や甲状腺検査などがセットとなって、ＪＡグループの助成により7,000円で受けることができます。健診を受けた女性は「かかりつけ医では受けられなかった血液、尿検査の他にも色々検査できてよかった。来年も受けたい」と健診内容に満足した様子でした。

ＪＡ島根厚生連健診普及部の江角幸夫部長は「受診者アンケートでは約40%の方が、毎年健診を受診していない現状にあり、ＪＡグループが魅力ある健診を提供し、直接、組合員に呼び掛けることは大いに意義がある。今年は県内全11地区本部で実施を予定しており、各地区本部と協力して取り組みを進めたい」と話しました。



「農業者・女性部健診」を受ける女性

くにびき

カボチャを重点振興品目に！ 6月下旬より共販出荷を開始

くにびき地区本部は7月2日、中海干拓研修センターで「カボチャ出荷検討会」を開催し、生産者やＪＡ職員、各市場担当者など43名が参加しました。

6月27日より、松江市内の市場を中心に広島や大阪の市場に向け、共販出荷を開始しており、品質や生育状況、出荷する際の規格や品質基準、収穫適期、保存方法を確認する目的で開催しました。

当日は、松江合同青果や広印広島青果、東果大阪の担当者が市場の情勢について解説。続いて、営農指導課の犬山浩二園芸特産係長が「収穫後にキュアリングをすることで腐れを防ぎ、甘みも増す。収穫適期を逃さず、適切な保存に努めてほしい」と説明しました。その後、参加者は出荷前のカボチャを実際に手に取ったり、試食したりするなど品質や味を確認しました。

同課の岩田政彦課長は「昨年より重点振興品目として取り組んでいる。ほくほくとした食感と濃厚な甘みを堪能してほしい」とＰＲしました。

参加した吉岡清さん（朝酌町）は「コクがあり、おいしいカボチャなのでたくさんの方に食べてもらいたい」と話しました。

今年度は共販面積を1.6haから3.5haに拡大。出荷量は92tを計画しており、出荷は8月末まで続きます。



カボチャを手に取り状態を確認する参加者

隠岐

ＪＡ女子大学で ぶどう狩りを体験

ＪＡしまね女子大学隠岐キャンパスは7月27日、第8回目の講座として日帰り修学旅行を行いました。朝早くから高速船レインボーに乗船し、出雲地区本部管内でぶどう園を経営する大社観光ぶどう園へ出かけました。ぶどう園では、今が旬の「デラウェア」狩りを体験し、出雲地区本部管内の特産品であるぶどうを味わうことができ、参加した生徒からは「甘くて大変おいしい」と好評で、1人2房程度はぺろりと食べていました。今年は天候不順等の影響で良品が例年に比べて少ないとのことから、生徒からは「良品のぶどうが沢山ある時にまた来たいね」と声が聞こえました。

ぶどう狩りの後は、歴史を感じる体験を目的に松江の堀川遊覧船に乗船しました。隠岐の人間は船に乗る機会が多いものの、風情のある松江城の周辺をゆったりと遊覧できたことは、一緒に旅をした者同士の良い思い出になりました。



やすぎ

ホック食育フェスタで 金芽米をＰＲ

やすぎ地区本部は松江市のくにびきメッセで6月22・23日の2日間、(株)フーズマーケットホックが主催する「ホック食育フェスタ2019」に出展しました。

同地区本部はＪＡしまねの「金芽米」と「ロウカット玄米」をＰＲするため、試食や健康特性の説明などを行い、来場者に好評でした。また、家庭でも食べてもらおうと、サンプルとして金芽米3合を400袋プレゼントし、サンプルを受け取った来場者は「今日いただいた金芽米を家族と一緒に食べてみます」と話しました。

今年は食品メーカーをはじめとする約60のブースが出展、2日間で約1万名が来場し大いに盛り上がりました。精米センターの三島裕所長は「金芽米のおいしさを実感してもらおう良い機会となった。さらに金芽米の認知度を高めたい」と話しました。



斐川 美肌はとむぎ料理講習会

斐川地区本部よい食工房は7月9日、ひかわあぐりキッチンふぁみーゆで「誰でも簡単・お手軽レシピ」と題して「美肌はとむぎ料理講習会」を開催しました。はとむぎに興味を持つ13名が参加し、郷土マクロビアンの岡 里美さんを講師に招き、「はとむぎ茶飯」「とうもろこしとはとむぎのスープ」など計5品を調理しました。出来上がった料理を岡さんと一緒に堪能しながら、はとむぎについての効果・効能についての説明を受けた参加者は、「地元こんな素晴らしい食材があったなんて驚いた!」「健康と美容のためにも、これからも家族で食べていきたい」などと感想を話しました。健康・美容志向が高まる中、よい食工房では斐川町産のはとむぎの良さを多くの人に知ってもらうために、このような料理講習会を今後も継続して開催していく予定です。



石見銀山 大田市長へメロンを贈呈

温泉津町施設園芸組合の岩倉勝政組合長、厚朴邦広副組合長は7月11日、大田産メロンPRのため大田市役所を訪れ、楢野弘和大田市長に「アムスメロン」を贈呈しました。同組合では7月3日から「アムスメロン」の出荷が始まっています。

早速、試食した楢野市長は「とても甘くておいしい」と感想を話しました。

岩倉組合長は「糖度が高く、美味しいメロンに出来上がっている」と語りました。

大田市長へのメロン贈呈は地元産のメロンを広くPRしていきたいという思いから企画しています。

楢野市長は「暑い中の作業だが、体調に気をつけながら地域のために頑張っていたください」と激励しました。



市長（左）にメロンを贈呈する岩倉組合長（中央）、厚朴副組合長

隠岐 どうぜん 令和初の家畜市場の開催

7月3、4日の両日、新元号初の隠岐どうぜん管内家畜市場が開催されました。隠岐諸島では、春（3月）、夏（7月）、秋（11月）の年3回家畜市場が開催され、島の一大イベントとして風物詩となっています。隠岐どうぜん管内は、知夫里島（知夫村）、中ノ島（海士町）、西ノ島（西ノ島町）の3島3町村で構成されており、各町村に家畜市場が常設されていて、畜産の重要性が理解できると思います。3日の知夫市場を皮切りに、海士市場、翌4日の西ノ島市場と、子牛240頭、成牛22頭の合計262頭の上場となり、前回（3月）市場より上場頭数は減りましたが、平均価格は若干上昇しました。畜産総合施設として開設した西ノ島家畜市場が、関係者の協力によりスムーズな運営となり、無事1周年を迎えた記念を込め、前日の2日に当施設中央広場にて、購買者、畜産農家とJAをはじめとする関係者による、バーベキュー意見交換会を開催しました。出席者の貴重な意見を聞くことができ、有意義なひと時となりました。また、今後もこのような場を設けてほしいとの声が多く聞かれ、畜産の活況に結び付けたいと同時に大きな励みになりました。



出雲 島根県産シャインマスカット 出荷本格化を前に目合わせ

出雲地区本部は7月15日、同地区本部荒茅ぶどう集荷所で令和元年産「シャインマスカット」の出荷目合わせ会を開きました。出荷の本格化を前に、生産者ら約150人が等級規格を確認しました。

同地区本部管内の「シャインマスカット」の作付面積は右肩上がりで増えており、今年産は28ヘクタール（前年比16%増）で栽培します。ギフト需要に対応するため8月上旬までの出荷量を伸ばし、管内の販売金額3億円を目指します。

同部会大粒系部の吾郷均部長は「品質重視で他産地と勝負していく。商品を扱っているという意識を持って、選果選別を徹底してほしい」と呼びかけました。

JAしまねでは、激化する産地間競争に対応しようと、今年産から県下の「シャインマスカット」の共同計算を実施しています。一元的に管理して品質の高位平準化を図るとともに、ロットの拡大で売り場確保、県産「シャインマスカット」の地位向上を図ります。



出荷規格を確認する生産者

西いわみ

益田市長に旬のメロンと ブドウを贈呈しました

旬を迎えるメロンと、大粒系ブドウを味わってもらおうと7月10日、益田メロン部会(部会長大場尚俊)と西いわみぶどう部会(部会長岩本和雄)が揃って益田市山本浩章市長を訪ね、「アールスメロン」と「シャインマスカット」「巨峰」「ピオーネ」を贈呈し益田産農産物をPRしました。

当日は同市常盤町の市長室に、大場部会長と岩本部会長が化粧箱に入った「アールスメロン」と「シャインマスカット」「巨峰」「ピオーネ」を持参しました。

試食した山本市長は「メロンは口当たりが良くとても甘い。ブドウも香りが良くおいしい」と喜びました。

JAでは、今後も管内農産物のPRや販売促進に向けた取り組みを継続していく計画です。



島根
おおち

ケイトウ栽培いよいよ大詰め

島根おおち女性部では営農活動として「ケイトウ栽培」に取り組んでおり、今年で8年目をむかえました。2月に開催した「ケイトウ栽培講習会」を皮切りに、4月中旬からは各支部で「種まき講習会」、5月には「定植に向けた栽培現地講習会」、6月には「栽培管理講習会」、7月には「出荷目合わせ会」を開催し、出荷のピークとなるお盆に向け準備を行っています。天候に左右され、毎年様々な課題もありますが、4月に一粒一粒丁寧に蒔いた種は順調に成長し出荷時期を待っています。今年も「赤」、「オレンジ」、「ピンク」3色のケイトウの出荷を予定しています。

島根おおち女性部では「ケイトウ栽培」の活動を継続していくことで、ケイトウ栽培の輪、そして女性部活動の輪を拡げていきたいと考えています。



ケイトウの生育状態を確認する島根おおち女性部寺内部長

本店

アグリミーティング& 農機総合展示会 大盛況!

6月13、14日の2日間、松江市のくにびきメッセで「アグリミーティング2019」と「第9回農機総合展示会」を開催しました。

今年のテーマは「『新時代』みんなで創るしまねの農業～島根の農業半端ないって!!～」に設定。相談コーナーなど様々なブースや、最新農業機械を展示し、担い手の皆さまが抱える様々な課題の解決に向けて、JAグループの総合力を発揮し提案しました。県内で生産された旬の野菜や果物、加工品を販売し島根農業の魅力を発信する「島根大産直市」も同時に開催し、2日間で担い手や一般消費者あわせて5,500人の皆さまにご来場いただきました。

メインステージでは「下町ロケット ヤタガラス編」の登場人物のモデルとなった北海道大学大学院農学研究院副院長・教授の野口伸氏から、スマート農業技術の必要性や実用化が期待される最新の技術について講演いただいたほか、女性部フレッシュミズ部会がプロデュースした農作業着ファッションショーを行うなど会場は大変盛り上がりしました。



相談ブースやメーカーの展示が並ぶ会場は多くの人で賑わいました

いわみ
中央

青年連盟 出前授業で地域と交流

いわみ中央青年連盟(柿木悟委員長)は7月19日、公民館活動の一環として浜田市社会福祉協議会の生活支援コーディネーターからの依頼を受け、この度、初めてこんにゃく作りの出前授業を行いました。当日は20名の参加者を4班に分け、こんにゃく芋をサイコロ状にカットするところから作業を始めました。作業中は和気あいあいとおしゃべりしながらでしたが、最終工程の茹でる段階になると、他の班の出来具合が気になるのか、集中し徐々に無言になりました。自分達で作ったものは臭みもなく、格別においしいこんにゃくが出来上がりました!参加された皆さんは大満足でした。青年連盟は今後も交流活動や、食農教育活動を積極的に行っていきます。



JA
自己改革
実践中

JAグループ島根

JAしまね農業振興支援事業 活用事例のご紹介



JAしまねでは、経営拡大に向けた基盤整備や機械等の更新対策、県域でのモデル事業を実施するために、「JAしまね農業振興支援事業」に取り組んでいます。

古谷光教さん（44歳）は、隠岐郡知夫村で繁殖牛を飼育しています。知夫村での飼育は、その環境を活かした放牧が主となりますが、一方で放牧であるが故の事故や牛の行方不明などが起こりやすい状況があります。古谷さんは牛たちが事故にあわないよう、毎日の観察や見回りを徹底するなど、細やかな気配りを欠かしません。

JAしまね農業振興支援事業は平成29年11月に新規就農の際、就農にあたって必要となる牛舎の整備や畜産専用機械の導入、また牛の価格高騰が続いていることから所得の安定を図るため繁殖母体となる雌牛の早期確保に活用しました。

新規就農者や後継者不足など隠岐地域の大きな課題に向け、JAには新規就農者や家畜農家への継続的な支援を期待しています。

古谷さんからは「年間出荷頭数30頭が目標。知夫村全体の出荷頭数の増加に貢献したい」と意欲をお話いただきました。

隠岐郡知夫村 古谷 光教さん



一所懸命 青年連盟

JAしまね島根おおち青年連盟

JAしまね島根おおち青年連盟は、島根県のほぼ中心にある邑南町、川本町、美郷町、江津市桜江町の盟友146名で構成されています。活動については、食農教育活動に力をいれており、管内の保育所、園に野菜苗を配布し、その収穫した野菜と盟友が作った野菜を使って「愛菜カレーの日」というイベントを開催しています。管内すべての保育所、園（16ヶ所）で、園児と一緒に野菜を切ったり、皮をむいたりしてカレーを作り、食べて交流しました。また、盟友が食に関する紙芝居を読んで園児達も熱心に聞いていました。今後もJAしまね島根おおち青年連盟は、未来を担う子供たちと一緒に、食農教育活動を続けていきたいと思っています。



第5回 地区別総代説明会 開催

やすぎ地区本部は6月22日、わかさ会館で第5回地区別総代説明会を開催し、総代定数79人のうち62人の総代に出席いただきました。

総代説明会では、第5回通常総代会の資料説明とやすぎ地区本部の平成30年度事業報告や令和元年度事業計画の説明を行い、その後総代からの意見、要望をいただき、地区本部役員と本店役員より回答を行いました。

そして、6月30日に開催したJAしまね第5回通常総代会では、平成30年11月8日の臨時総代会にて決議された内容をもとに、役員改選においてJAしまねの新たな運営体制の承認をいただきました。新体制ではJAしまねの理事を65人から40人に削減し、やすぎ地区本部においても4人から2人の理事体制に変更となりました。

また、総代会終了後の理事会にて、JAしまね代表理事副組合長に山根盛治理事（本店枠）、やすぎ地区本部常務理事本部長に伊藤精一理事、非常勤理事に根來茂樹理事が決まりました。



やすぎ地区本部 令和元年度事業計画〈基本方針〉

令和元年度は、現在進めているJA自己改革に継続的に取り組むとともに、事業の見直しによる効率化と集約化を進め、組合員及び利用者の皆様から選ばれる存在であるよう取り組みを進めます。

また、行政との連携による新規就農者の育成や農業法人の設立支援などの担い手育成、健康増進と実需者ニーズを反映した安全・安心な農産物の生産と販売に積極的に取り組むとともに、組合員や地域住民の皆様の生活活動や暮らしに係る事項や将来の各種リスクに対して、気軽に相談ができ適切な提案が行えるよう、総合事業と協同活動の取り組みを展開します。

令和元年～3年 地区運営委員のご紹介

【赤江支店】 廣江繁樹、原田吉郎、岸川勉、石丸秀一

【安来東支店】 古志野一美、三輪康人

【安来南支店】 長谷川雅博、山本耕一、山崎正志

【伯太支店】 船越健記、景山雄蔵、細田幸宏、秦浩恭

【広瀬支店】 横山芳明、上廻達矢、足達百合子、木島貴章、須藤清範

【女性枠】 長島千代子、砂流裕美子 【青年枠】 北中宏一

J Aしまね本店 第3期役員 所信表明

平成十六年六月、J A やすぎに常務理事として就任してから早十五年が経過しました。その間、経済事業改革に始まり、支所統合、代理所の廃止、農業事業改革等に取り組み、J A しまねの誕生を迎えました。そして合併から四年五か月を経過しましたが、満足のゆく合併メリットは達成していません。二期目の副組合長になります。J A しまねが成すべき課題に全力で取り組みます。

これからも、地域に必要とされる協同組合になるよう、農業者所得増大に努力し、生産拡大と地域貢献を柱に、資源を生かした自然循環型農業の実現に尽力してまいります。



代表理事 副組合長
山根 盛治

J Aしまねやすぎ地区本部 第3期役員 所信表明

この度の改選で、やすぎ地区本部長として再任いたしました。

農業を取り巻く環境は人口減少、担い手不足、農林中央金庫の奨励金激減など大きく変化してきています。

そうした中で、①統合メリットの発揮 ②健全経営の確保 ③意思反映の構築（自己改革の実施）以上のことを実現するため今後の三年間、最大限努力してまいります。

常に改革意識をもち、「組合員の身になって」J A 運動を推進してまいります。今後とも組合員の皆様の一層のご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



常務理事 本部長
伊藤 精一

この度、やすぎ地区本部非常勤理事に就任いたしました。

常に「組合員のために行えるのか」を思いながら、広い視野と新しい発想をもって、一つ一つ実践したいと思えます。そして「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本とした自己改革を進め、統合メリットの創出に取り組んでまいります。また、一番大切な事は「信頼」であります。任せて安心な風通しの良い経営環境を作り、ご利用いただく皆様と寄り添って共生していきたいと思います。

今後とも皆様のご支援ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



非常勤理事
根來 茂樹

J Aしまねやすぎ地区本部 役員退任挨拶

六月三十日の第五回通常総代会をもちまして、J A しまねに合併後、二期四年余の非常勤理事を退任いたしました。

在任中は組合員並びに地域の皆様にご多大なご支援、ご協力を賜りましたことを厚くお礼申し上げます。

現在、鳥取県と島根県は全国で一、二の人口が少ない都道府県のため、後継者の育たない危機的な状況に追い込まれています。

県一農協は島根県の農村と農業を守るため、唯一の手段として積極的な取り組みであると感じ、今後の事業体制の整備と農業振興を祈念いたします。



前非常勤理事
秋間 近夫

しまね夏の花品評会 梶岡さん最優秀賞



中国四国農政局長賞
梶岡 優一さん トルコギキョウ
ゆめタウン出雲支配人賞
島田 文子さん アスター
島根県花き生産者協議会長賞
北中 宏一さん 小菊

J Aしまねと島根県花き生産者協議会は7月27日から28日の2日間、令和元年度「しまね夏の花」品評会をゆめタウン出雲で開催し、出品総数106点の中から梶岡優一さん出品の「トルコギキョウ セレモニーブルーフラッシュ」が最優秀賞の中国四国農政局長賞に選ばれました。

今年の品評会は審査員が頷けるほどレベルの高い出品物が多い中、最優秀賞のトルコギキョウは品種本来の特性を兼ね備えた鮮麗な花の色、花のボリューム感などが評価されました。さらに、安来管内からは他2点が受賞するなどの活躍をみせました。受賞結果は左記の通りです。

また、島根県産の花を素材とした親子で楽しめるフラワーアレンジメント体験や来場いただいた方の投票で決定する「私たちが選んだ花」賞の選考を行い、島根の花をPRしました。



J Aカップ安来地区予選開催



J Aカップ第36回県学童軟式野球選手権大会（県軟式野球連盟、山陰中央新報社主催、J Aしまね、J A共済連島根特別協賛）の安来地区予選を7月の中

頃に安来運動公園野球場で開催しました。J Aとしては、次世代を担う少年たちが野球を通じて健全な心と体を育み、正しいマナーを身につけ、相互の友情を深めることを願い大会に協力しています。

大会では8チームが出場し、十神、広瀬、赤江、安来がベスト4に進出。決勝では安来と広瀬が熱戦を繰り広げ、2-0で安来ゴールドスターズが優勝を飾り、県大会出場を決めました。



親子で米粉ピザづくり

やすぎ地区本部は7月6日、社日小学校で親子を対象とした米粉ピザ作り教室を行い、20組の親子が参加しました。

教室ではJ A職員から作り方を教わると、児童らは一所懸命に生地をこね、程よい大きさになるようきれいに生地をのばしました。また、親に包丁の使い方を教わりながら具材となる食材を切り、たっぷりのチーズと一緒に生地へのせ、焼きあがるのを楽しみにオープンに入れました。焼いている間に、J A職員がお米に関する紙芝居やクイズなどを行い、親子で楽しみながらお米の大切さを学びました。

ピザが焼きあがると上手にできた熱々のピザをみんなでおいしく食べ、参加した親子は「一緒においしい米粉ピザが作れていい思い出になりました」と話しました。

この活動は、くらしの活動の一環として行い、児童たちの豊かな感性を育てることを目的とした活動で、同地区本部はこうした活動に力を入れています。



農業サポーター養成基礎研修

やすぎ農業サポートセンターはこのほど、やすぎ担い手支援センターで、サポーター登録をしている方を対象に、特産のトルコギキョウの定植と出荷調整の農業サポーター養成基礎研修を開催しました。



定植作業では、県の農業普及員より栽培管理の流れや定植する時のポイントを学んだ後、株元が露出しないよう気をつけながら定植を行いました。また、出荷調整作業では、やすぎ花卉部会員から出荷基準や摘除する蕾の見分け方など出荷調整方法を教わりながら作業し、収穫前調整として摘蕾も行いました。

同センターは、安来地域担い手育成総合支援協議会が運営している無料職業紹介所であり、サポーター制度は働き手を必要とする農家とサポートしたい働き手を結びつけており、花きの他にも苺や梨、葡萄などの研修を行っています。

**農業サポーターの質問や登録のお問い合わせは...
TEL: 0854-26-4425**

赤屋畜産まつり開催



赤屋地区和牛部会は赤屋小学校前駐車場で7月5日、令和元年度赤屋畜産まつり（共進会）を開催しました。生後9～21カ月の肉用種牛

8頭が出品され、審査員2人による厳正な審査の結果、妹尾善治さん出品の「ふみこ」が首席に選ばれました。今回出品された牛は全体的に発育判定が4～5と良好で、首席に選ばれた「ふみこ」は1番若いながら判定5、また、長さや幅などの体積が優れていました。

また、審査結果を待つ間には、地域住民が参加する審査競技や地元小学生と保育園児の見学があり、赤屋畜産まつりは牛とふれあうことのできる貴重な畜産振興の場となっています。審査結果は下記の通りです。

**首席 妹尾 善治「ふみこ」
次席 細田 眞澄「みわこ274」
三席 田口 好美「ひみくしなだひめ」**

ほっとフェスタ2019開催 (第5回総合展示会)

やすぎ地区本部は7月21日、やすぎ生産センターでほっとフェスタ2019（第5回総合展示会）を開催しました。悪天候にも関わらず大勢の皆様にご来場いただき、ありがとうございました。

当日は、農業散布用などのドローンや農業機械の商談、旬のデラウェアなどの地元の青果物や花き、生活用品の展示販売、農青連や地元団体、JA職員が作る安来の農畜産物を使った飲食販売など多くのブースが出店。他にもお楽しみ抽選会、子供が楽しめるスタンプラリーやヨーヨーすくいなども行いました。

また、テレビやラジオでお馴染みのべるをさんが総合司会として会場を盛り上げ、来場された家族は「子供と一緒にいろいろまわり楽しみました」と話し、多く方に楽しんでいただきました。同地区本部の伊藤精一地区本部長は「大勢の組合員と職員がふれあえるよい機会となった」と話しました。



たくさんのご来場
ありがとうございました!



安来の元気な子ども達を紹介します！

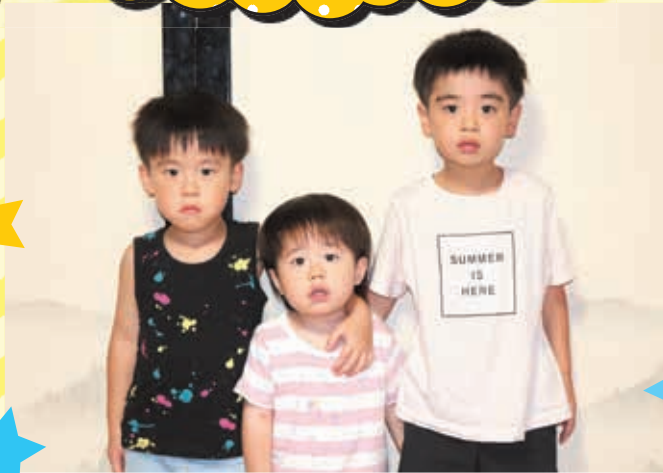
MIRAI
KIDS

未来の 主役 たち

りゅうせい
井塚 琉 惺 くん(5さい)

あいぎ
愛 稀 くん(4さい)

ふうご
風 護 くん(2さい)



恐竜とダンプカーが好きな琉惺くんは、照れ屋な男の子。保育園では、友達が悪いことをしていたら注意することも。最近、カブトムシのお世話を頑張っており、将来の夢はダンプカーの運転手！

トマトとイチゴが好きな愛稀くんは、明るくオチャラケな男の子。最近、琉惺くんの影響で、騎士竜戦隊リュウソウジャーにハマっているんだって。また、虫などの生き物にさわられるようになったみたい。

とうもろこしが好きな風護くんは、すごく活発な男の子。よく食べる子で、同年の子に比べて体が大きく、力があるんだって。最近、よくお兄ちゃん達のマネをしているんだって。

そんな3人は何かするときには常に一緒に、この夏は家族で、おもちゃ王国に出かけるんだって。

～お父さんお母さんより～

「弟2人と遊んでくれる琉惺。甘えん坊だけど風護の面倒を見てくれる愛稀。2人のお兄ちゃんのマネをして遊ぶ風護。これからも元気に楽しく過ごそうね。」

家の光 料理倶楽部

講師：栄養士 飯塚生美子 氏



夏野菜のアクアパッツァ



料理は家の光8月号204頁を参考にした先生のオリジナルレシピです♪

活動記録

7月は、ズッキーニやカボチャ、鯖を使い「夏野菜のアクアパッツァ」を作りました。バジルの香りが爽やかなイタリア料理になりました。他にも、「ブロッコリーソースのイタリアンそうめん」や8月号61頁の夏バテ予防から甘酒を使った「甘酒プリン」などを作りました。



入部希望者は、ふれあい福祉課 (0854-22-3751) まで

ふれあい福祉課だより



頑張って作られた作品です！

お問い合わせ

JAしまね やすぎ福祉サービスセンター
TEL: 23-8230 FAX: 23-8231

デイサービスセンター ふれあいの夏

今夏も猛暑日が続き、プランターで栽培している野菜はバテ気味です。一方、過ごしやすい環境のデイルームでは、ご利用者のみなさまのパワー全開！作品作りやレクリエーション等々で交流の花が咲き、職員も元気をいただいています。

暑さに負けず、この夏を心身ともに健やかに過ごしてください！



女子大レポート

ハーバリウム作り

講師

田中 弘子氏



今回の女子大は、米子市の「チェリーハウス」から日本ハーバリウム協会認定講師の田中弘子氏を招き、オシャレなインテリアとして人気のハーバリウム作りを行いました。ハーバリウムとは、ボトルの中に乾燥させた植物を入れて、オイルにつけることで長く保存できるようにしたもので、今回は大きいものと小さいものを1本ずつを作りました。学生は講師からアドバイスなど受けながら、素敵なハーバリウムを完成させました。

学生感想

- ◆たくさんの材料の中から好みの花を選ぶのに苦戦しましたが、満足のいく作品に仕上がりました。
- ◆他の方の作品もそれぞれ素敵で、見るのも楽しかったです。



直売店舗・資材店舗の臨時休業のお知らせ

平素より直売店舗・資材店舗をご利用いただき、誠にありがとうございます。
さて、誠に勝手ではございますが、POSシステムの更新に伴う臨時休業を下記の通りとさせていただきます。大変ご迷惑おかけいたしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

店 舗	休業日
なかうみ菜彩館	令和元年8月31日(土)
グリーンセンターはしま店	令和元年9月1日(日)
グリーンセンターひろせ店	令和元年9月1日(日)
資材店舗サンサン	令和元年9月1日(日)

お問い合わせ先

やすぎ地区本部
直売店舗課 (TEL : 0854-28-7200)
資材課 (TEL : 0854-28-7800)

『安来の梨』直売イベント開催のお知らせ

今年も梨のシーズンを迎え、JAしまね安来梨選果場では梨の直売イベントを下記の通り行います。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

- 日程 令和元年
8月26日(月)～28日(水)
- 時間 午前10時～午後3時まで
- 場所 安来梨選果場
(下坂田町1027-1)
- 備考 進物の地方発送を承ります



お問い合わせ先
(担当：永塚)

安来梨選果場
TEL : 0854-22-3755 (FAX兼)
やすぎ地区本部 生産流通課
TEL : 0854-28-7800 FAX : 0854-28-6780

ご来場の方に、進物を定価の『500円引き』で販売！
この機会にぜひご利用ください。



担い手に役立つ 営農技術や流通 盛りだくさん

購読のお申し込みはJAへ
購読料 1ヵ月 2,623円(税込)



協同の輪を広げ 自己改革を進めよう JAグループ情報共有運動

**9月の外務日は
18日(水)・19日(木)**
担当職員がお伺いします。

税務相談会日程

- 安来東支店 9月2日(月)10時～12時
- 伯太支店 9月2日(月)13時30分～15時30分
- 広瀬支店 9月13日(金)10時～12時



市況動向

島根中央子牛市場
(単位:円・頭)

種別区分	地区区分	安来地区	伯太地区	広瀬地区	地区平均	中央市場
雌	平均価格	725,580	0	750,168	736,756	691,016
	頭数	6	0	5	11	88
	最高価格	781,920	0	817,560	817,560	1,137,240
又キ	平均価格	855,360	757,350	820,260	809,136	829,215
	頭数	4	4	2	10	115 (0)
	最高価格	1,024,920	827,280	825,120	1,024,920	1,243,080
総平均価格	777,492	757,350	770,194	771,223	769,306	
合計頭数	10	4	7	21	203	

7月子牛市場県外移出頭数

() 内、頭数

	山口県	広島県	滋賀県	宮崎県	佐賀県	長野県	福岡県	その他	合計	県外移出率
雌	12	12	10	0	13	8	6	15	76	56.29%
去	24	4	6	15	0	5	4	5	63	38.18%
合計	36	16	16	15	13	13	10	20	139	46.33%

肥育センター5等級評価牛 (7月出荷分)

血統	種別	枝重	格付	BMS	備考
美国桜-安福久-勝忠平	去勢	469.6kg	A5	9	
久茂福-照美-茂重桜	去勢	493.2kg	A5	10	
茂晴花-美津照重-茂重桜	去勢	477.6kg	A5	12	

全国“強気配”も相場不透明

令和元年7月の全国主要子牛市場平均価格(全農・畜産生産部7月18日現在速報)は雌731千円(前月比102%)、去勢822千円(前月比102%)、計783千円(前月比102%)で“強気配”の取り引きとなっています。

本県7月の子牛市場は隠岐・西部・中央市場で開設し、637頭の上場があり、平均価格は隠岐647千円(前回は10千円高)で“小高”、西部市場が702千円(前回は18千円安)で“弱気配”、中央市場は769千円(前回は33千円高)で“反発”の取引となりました。

中央市場の上場牛では発育状況にややバラツキがあり、発育良好な牛がみられた反面発育の劣る牛や過肥気味の牛も散見されました。

枝肉相場においては、今月に入ってから一部上物は活発な取引がされていますが、全国的に5月連休の価格低下が尾を引く様な形で推移している状況です。今後需要期に向かって枝肉相場の不透明感が強まっており、それに反映して素牛相場も不安定な状態となっています。

タテのカギ

- ① テレビのリモコンにはたくさん付いています
- ③ くだらかな——が続く丘陵地
- ⑥ 合唱部が練習するもの
- ⑦ 耳かきと共に行方不明になりやすいそうです
- ⑧ 今からこれじゃ、——が心配だなあ
- ⑩ 仲人から紹介を受けて、伴侶候補と会います
- ⑭ 宴会でグラスをみんなで掲げて……
- ⑯ 相撲の勝敗を記録した——表
- ⑱ ゴホゴホゴホ
- ⑲ 価格が高くなること
- ⑳ 煮物などに使う、アルコールを含む調味料

ヨコのカギ

- ① 9月1日は——の日。非常持ち出し袋や避難経路を確認しましょう
- ② 高知の名物料理、カツオの——
- ③ 皮膚の表面にある細かな模様。——の細かい肌
- ④ 食器を拭く布です
- ⑤ いがに守られた実がなります
- ⑦ 晴れた十五夜にはとても明るい
- ⑨ 矢を射る道具
- ⑪ 陽の反対語
- ⑫ 国や地方自治体に納めます
- ⑬ 首都はモスクワ。大きな国です
- ⑮ 肉料理に添えたり、刻んでスープに浮かべたりする香草
- ⑯ 傘にも凧(たこ)にもあります
- ⑰ バラの茎にある突起

二重マスの文字を A ~ E の順に並べてできる言葉は何でしょうか？

1	6	8			16	19
2				13		
		9	10		17	
	7			14		
3			11			20
4				15	18	
5			12			

答え

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

応募要項

- 応募方法 ハガキに、答え、住所、氏名、年齢、電話番号、本誌に関するご意見・ご感想を記入して、下記宛先にお送りください。
- 賞品 正解者の中から抽選で40名(JAしまね全体)の方に「JA商品券」をお贈りします。
- 当選者発表 賞品の発送をもってかえさせていただきます。
- 宛先・締切 〒692-0014 安来市飯島町1205-1
JAしまね やすぎ地区本部 ふれあい福祉課 「クイズ」係
2019年9月5日(木)(当日消印有効)

先月号の答え 「キモダメシ」

リ	ツ	シ	ユウ	カ
マ	ツ	チ	マ	キ
シ	ミ	シ	ユク	ゴ
ユ	マ	モウ	オ	
ク	ロ	ウ	ト	バ
ダ	ウ	ン	カ	ン
イ	ド	ウ	メ	ダ

・お預かりした個人情報は、プレゼントの抽選・発送以外の目的で利用することはありません。



要注意、熱中症

JA島根厚生連

毎日暑い日が続いていますね。夏は熱中症に注意が必要です。重症化すると命に関わります。熱中症の症状を理解し、予防に努めましょう！

● 熱中症は、高温多湿な環境に私たちの身体が適応できないことで生じる様々な症状の総称です。以下のような症状が出たら、熱中症にかかっている危険性があります。

- | | | |
|--|------------------------|--------------|
| 1. めまいや顔のほてり | 2. 筋肉痛や筋肉のけいれん | 3. 体のだるさや吐き気 |
| 4. 汗のかき方がおかしい(何度拭いても汗が止まらない、まったく汗が出ないなど) | | |
| 5. 体温が高い、皮膚の異常 | 6. 呼びかけに反応しない、まっすぐ歩けない | 7. 水分補給ができない |

このような症状が出ないように、日頃から熱中症の予防・対策をおこないましょう。

● 熱中症の予防のための 3つのポイント

- ① 脱水対策——のどが渇かなかつたり、汗をかかなくても水やお茶などでこまめに水分補給します。大量に汗をかくと、汗とともに塩分(ナトリウムなど)も失われます。その場合は、水分に加え、塩分補給が必要です。スポーツドリンクを利用してもよいです。入浴時や睡眠時にも汗をかいているので、入浴前後、寝る前、起床時にも水分を補給しましょう。
- ② 体の内部の温度を上げない——外出するときは、11~15時ごろの日中の暑い時間帯を避けます。また、外出や屋外での活動をする場合は、天気予報や環境省の「熱中症予防情報サイト」で、暑い日や時間帯を確認するとよいでしょう。外出したら、こまめに涼しい場所での休憩をはさみ、水分補給をします。
- ③ 室内を涼しくする工夫——熱中症の約40%は室内で起きているというデータもあります。部屋はカーテンなどで日ざしを遮り、エアコンと扇風機を併用して温度を下げましょう。特に高齢者は、暑さを感じにくい場合があります。温度計や湿度計を使って数字で確認し、温度は28℃、湿度は70%を超えないようにします。

正しい理解・適切な予防で、暑い夏を乗り越えましょう！！

ハチを見かけたら巣づくり警報!

無料調査
ハチ駆除

近寄らず、触らず!!
ハチの駆除はプロにお任せください。

ハチの駆除をご希望の方は
最寄りのJAまでご連絡ください。
JAしまね取扱業者(株)コダマサイエンスの
地区担当者が訪問させていただきます。



お問い合わせ先

最寄りのJA各支店・
支所にお問い合わせ
ください

取扱業者

(公社)日本しるあり対策協会企業登録(島根県002・鳥取県002)

Kodama 株式会社 コダマサイエンス

■本社 / 島根県松江市西嫁島2-8-23 ☎0852-43-0852

■松江営業所 / ☎0852-26-6757 ■江津営業所 / ☎0855-52-6852

■益田営業所 / ☎0856-22-5390 ■隠岐営業所 / ☎08512-2-2471

島根県立農林大学校 入学試験実施のお知らせ

- 募集人員** ①農業科(有機農業・野菜・花き・果樹・肉用牛) / 40名【修業年限2年】
②林業科 / 20名【修業年限2年】
③短期農業経営者養成科 / 5名【修業年限1年】

- 試験日** 学校長推薦 / 令和元年10月30日(水)
一般前期 / 令和元年12月11日(水)
一般後期 / 令和2年2月13日(木)
地域推薦 / 随時
自己推薦 / 令和元年10月30日(水)、31日(木)
※一般後期試験は実施しない場合があります。

- 試験会場** 島根県立農林大学校 (大田市)

◆詳しくは◆
農林大学校の
ホームページ、または
農林大学校
☎0854-85-7012
まで。

簡単ガパオライス



●材料 (2人分)

鶏ひき肉…………… 180g	赤唐辛子 (小口切り) …… 1本
酒…………… 大さじ1	卵…………… 2個
赤パプリカ…………… 1/2個	④ オイスターソース、ナンプラー …………… 各大さじ1
ピーマン…………… 60g	
玉ねぎ…………… 60g	サラダ油…………… 大さじ1
バジル…………… 20枚	ごはん…………… 2人分
にんにく (みじん切り) …… 5g	

●作り方

- ①玉ねぎ、ピーマン、赤パプリカは1cm角切り。
- ②フライパンにサラダ油、にんにく、赤唐辛子を入れ香りをだす。
- ③鶏ひき肉を入れ、酒をふりかけて炒める。
- ④玉ねぎ、ピーマン、赤パプリカを入れ炒め、しんなりしたら④の調味料を入れる。
- ⑤手でちぎったバジルを軽くまぜ、火を止める。
- ⑥目玉焼きを焼く。
- ⑦皿にごはんを盛り、⑤と目玉焼きをのせる。



ご飯の上にピリ辛ひき肉を乗せ、目玉焼きと一緒に食べるタイ料理の定番ご飯「ガパオライス」です。日本人の口にも合う味です。暑い夏にピッタリの料理で、フライパンひとつで作れるので、サッと手早く食べたい時にもおすすめです。

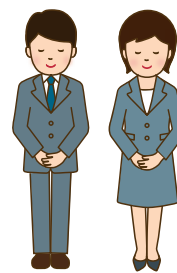
JA共済ご加入時における

おさいふカードへのポイント付与廃止のお知らせ

平素はJAしまねをご利用いただき、誠にありがとうございます。

さて、当JAでは、新規でJA共済にご加入いただいたご契約者のみなさまに、「おさいふカード」へのポイント付与を行っておりましたが、**行政庁の指導により**、令和元年9月30日までの新規共済契約をもちまして、おさいふカードへのポイント付与を終了させていただきます。何卒ご了承いただきますよう、よろしくお申し上げます。

今後も組合員・利用者のみなさまにご満足いただけるサービスの提供に努めてまいりますので、変わらぬご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



表紙紹介

表紙のイラストは野々村 直通 (ののむらなおみち) 先生に描いていただいています。

今月の表紙は大田市三瓶町の「浮布池」です。浮布池は、三瓶山の堆積物が谷の出口をふさいで出来た堰き止め湖で、池の南岸近くにある中の島には瀧幣姫神社 (にべひめじんじゃ) が祀られています。池の北岸からは水面に浮かぶ神社の鳥居が望め、幻想的な風景が当地に伝わる女性と大蛇の悲恋伝説を連想させます。

編集後記

本店トピックスでご紹介した「アグリミーティング」と「大産直市」。私も高校生ブースを見学しましたが…、高校生たちがキラキラした眼差しで商品を説明してくれると買わないわけにはいきませんよね。おすすめされるがまま、ついつい買すぎてしまいました。後悔はありません。おじさんは格好をつけたかったのです。高校生のみんな!おもしろかったよ!(和)

【今月の表紙の原画】

レイアウトの都合により表紙のイラストは原画の一部表示となっています。原画の全体は次のとおりです。

